

# 愛媛県現代俳句協会会報

No.36

R6・10・15

発行者 愛媛県現代俳句協会 会長 松本勇二  
事務局 千七九一―八〇四一  
松山市北吉田町三七二一 藤田敦子方

ご挨拶

会長 松本勇二

令和六年度の会報をお届けします。今年も暑い夏、そして秋でございましたが皆さまなにかに乗り切っていることと思います。

今年度も、書面での総会となりましたが多くの会員に対応をいただき、賛否の集計につきましては八割の賛同を得ましたことをご報告申し上げます。恒例の同時実施「通信俳句大会」は、今回もとても盛況で、十六句の投句がありました。高得点者へは賞品をお届けしました。

「令和六年度県民文化祭 俳句大会」が、来たる十一月四日に県民文化会館真珠の間で開催されます。十二時半投句へ切です。ふるって参加されますようお願いいたします。

三月には、昨年開催し、テレビや新聞で紹介されるなど、大盛況でありました、「俳句対局」が開催されます。愛媛県現代俳協主

催の大きなイベントです。多くの会員諸氏の入場を期待します。

六年度も新しい会員の参加が、少数ではありますが出ております。皆様の周囲で興味がありそうな方がおりましたら、役員までお知らせください。対応いたします。仲間は多い方が楽しいと思しますのでよろしく願います。

通信俳句大会の結果を掲載しておりますのでご確認ください。高得点句を紹介させていただきます。

・でこぼこの九十歳に青葉木菟 門屋和子

ご自身のことと思われませんが、来し方を「でこぼこ」と捉える、開き直りが光ります。自虐的ですが、妙に明るいのには青菜木菟のせいと思います。

・村一つ消えて螢の村となる 秋山豊美  
小さな集落の消滅を、「村が消える」と書いたのでしょうか。その寂しさを増幅する

ように、螢が飛び交っています。

・終りなき戦の国へ草矢射る 梅岡ちとせ

草矢では何の効果も期待できないのでしょうが、それを放つ作者。世界への大きな視野と、小さな抵抗を取り合せた佳品です。

・搾りたての牛乳のあを春深し 西田真己  
搾りたての牛乳を「あを」と見立てた感覚が光ります。緑の草を沢山食んでいる、元氣な牛の姿が浮かびます。

・蒼天に背を向けて立つ飛込台 大西政司  
飛込台の切迫感を大きな景色が包んでいるので、どこか安心感のある句になりました。緊張感満載の飛込の風景を、別の角度から捉えて新鮮です。

暑い夏と秋が何とか過ぎました。出掛けるにはちょうど良い気候となりました。外に出ることは健康維持には必須です。皆さん出かけて行きましょう。そして、元氣で明るい俳句活動を継続ください。

令和五年度 事業報告 (抜粋)

◇第35回定時総会及び役員会

六月五日、書面会議用資料を全会員に送付し、賛成多数で原案どおり承認された。

◇俳句大会

総会委任状に合わせて募集した俳句作品百八句を特別選者十六名が選句し、高得点者を表彰するとともに副賞を送付した。

高得点句上位(・特選五点、並選一点)

春日遅々ゴリラのように坐っている

大西宣子 十五点

飛魚の海の青さをうらがへす

片山一行 十四点

白玉やいつでも男やめてやる

井上論天 十三点

◇会報の発行

R五年十月十五日、会報No.三五号を発行し、全会員と関係機関へ発送した。

◇県現俳協主催 俳句イベントの開催

R五年十二月十日、限られた時間でひたすら俳句を作り、その俳句の生まれる瞬間を共有する催しとして「俳句対局 現冬王決定戦」を開催した。

・優勝 若狭昭宏 準優勝 安部奈月

同時に、北海道大学大学院調和系工学研究室が開発した俳句「こ」と人類の対局も開催し、僅差で「こ」が勝利した。対戦は多くの報道機関に取り上げられた。(於・坂の上の雲ミュージアム)

◇協会賞・新人賞の募集と選定

令和五年度 愛媛県現代俳句協会「協会賞」「新人賞」の応募があり、各選考委員の賛成句が20%を越えたため、受賞とした。

☆協会賞 藤田敦子「兄がいた」五十句

ティファールよやさしく歌え冬の朝

遺影みな正面を向く初明り

☆新人賞 川又 タ「やさしき馬蹄」三十句

ほろほろとまぶしき馬蹄八重桜

野分立つ悪夢のおほき抜糸の日

令和六年度 事業計画 (抜粋)

◇松山市文化協会入会

・令和六年度より、松山市文化協会に入会し、文化活動の振興及び新たな創造に貢献することとする。

◇第三十六回定時総会及び役員会

・六月三日(月)書面会議方式にて全会員に総会資料を送付し、承認を仰ぐ。

◇俳句大会

・総会議案に対する賛否に合わせて作品を募集し、会長以下の役員により選句し高得点を顕彰する。

◇句集を作ろう コンテスト 協賛

・小中学校を対象とした句集コンテストを協賛する。(募集期間七月〜九月予定)

◇会報の発行

・十月二十日(日)愛媛県現代俳句協会会報No.三十六号を発行し、全会員と関係機関へ発送する。

六年度通信俳句大会 一覧(数字が得点)

|                    |       |
|--------------------|-------|
| ○夏日蔭子供に着せてバスを待つ    | 福永立青  |
| 15 村一つ消えて螢の村となる    | 秋山豊美  |
| 8 搾りたての牛乳のあを春深し    | 西田真己  |
| 3 朝の体操蛙のように跳ねたいな   | 大野美代子 |
| 2 田植機のラジオからジャズ苗を足す | 藤田敦子  |
| 3 転生を信じておりぬ新樹光     | 本郷和子  |
| 1 父の日や父しか知らぬ戦中記    | 稲井夏炉  |

|                   |        |                          |       |                          |        |
|-------------------|--------|--------------------------|-------|--------------------------|--------|
| 「川とんぼ明日あいまいに水となる  | 片山一行   | 「終りなき戦の国へ草矢射る            | 梅岡ちとせ | 「最期まで厨妻なる茄子の花            | 本郷和子   |
| 〇夕焼の真つ直中で愛叫ぶ      | 井上論天   | 〇ひまわりに背丈越されてしまひけり        | 五島節子  | 〇意味のなき紐多き服さわやかに          | 川又タ    |
| 「海芋咲く花舗の光を孕みつ     | 櫛部天思   | 〇変りなき日常大事という悟り           | 大西政司  | 〇難曲に挑む日々なり立葵             | 山口和    |
| 「本当は夜明けが怖い桐の花     | 小木曾富美子 | 「卒業の蹠の故郷固めつつ             | 山崎涼   | 〇黒揚羽飛んで風景うら返す            | 三好真由美  |
| 〇梅月夜風とせせらぎ聞こえますか  | 薦田典子   | 「病葉のつどふ汀を亀が尻             | 田中泥炭  | 「青葉して山がまるごと動き出す          | 秋山豊美   |
| 〇石段を神の転がる秋祭       | 松木ヒサ子  | 〇疫病の世ゆるゆる生きる蝸牛           | 村上邦子  | 〇日日忘れ日日新たなり沙羅の花          | 玉井淳子   |
| 「天窓に他界を覗く五月闇      | 眞矢ひろみ  | 〇冷奴昭和を熱く生き抜いて            | 片岡寿子  | 〇瀬戸内の大夕焼けああ空と海           | 村上邦子   |
| 「とぼとぼと歩き卒寿や夏来る    | 玉井淳子   | 〇前略のような恋です南風             | 安部拓朗  | 「弟のライフジャケットふな虫散る         | 武智かおる  |
| 「限りある命を点す初蛸       | 片岡寿子   | 〇月雲に功績千歳の如く濃し            | 松木ヒサ子 | 〇夏蝶の千切れ飛びては陽に挑む          | 越智裕美子  |
| 「誰も来ずどこへも行かず梅雨に入る | 武智かおる  | 「潦蟬虎の謀                   | 櫛部天思  | 〇忘れられぬことは胃の腑に青葉木菟        | 松本勇二   |
| 〇沙羅咲くや母はだんだん透けてゆく | 金並れい子  | 「花見に満腹いつ死んでもはイヤ          | 藤田ユリ子 | 〇薄気味の悪い平和や七変化            | 稲井夏畑   |
| 〇目高生るきつと育つよ午後一時   | 大野美代子  | 〇イグルに炎の立ちて夏至の朝           | 片山一行  | 〇踏み入りて青の淋しさ若世            | 梅岡ちとせ  |
| 〇柔い手と堅い手握手暖かし     | 藤田ユリ子  | 〇熱帯夜河馬の嚏のような雨            | 若狭昭宏  | 〇地雷時く傷みに気づいてほしいからたかはししすみ |        |
| 〇凌霄花花の盛りは何度でも     | 三好靖子   | 〇被災地の友つつがなし初蛸            | 高橋美弥子 | 〇存分に生きた証ぞ落椿              | 三好照子   |
| 〇あばずれでございと紫陽花を伐ちぬ | 家藤正人   | 〇「でこぼこの九十歳に青葉木菟          | 門屋和子  | 〇蒼天に背を向けて立つ飛込台           | 大西政司   |
| 「少女期の微熱のごとき薊原     | 白石司子   | 〇戯れに草引き草の虜になる            | 三好照子  | 〇だんだんてふ一語ほのぼのさくらんぼ       | 井上論天   |
| 〇若駒の耳びりびりと振り返る    | 川又タ    | 〇いつもより明るく呼ばれる梅雨晴間たかはししすみ | 越智裕美子 | 〇はじめからそこにゐたのか墓           | 五島節子   |
| 〇疲れ果て縁側に坐われば風涼し   | 乃万美奈子  | 「耳閉じて眠る番犬さみだるる           | 高橋美弥子 | 〇花は葉に背筋伸ばして退職す           | 二宮洋子   |
| 〇花桐やつましき母の色として    | 二宮洋子   | 「霊山の気を全身に青葉騒             | 浜田京子  | 〇燦々と揺蕩と象の尿かな             | 白石司子   |
| 〇牛蛙望郷のうた奏でをり      | 山口和    | 「ちちははへ供う枇杷選る道の駅          | 高橋美弥子 | 〇蜘蛛の囀や風は囀となつてをり          | 小木曾富美子 |
| 「燕飛ぶ空に一筆書きのごと     | 三好真由美  | 〇雲の峰村に無学の徒の無しと           | 藤田敦子  | 〇月明に波あり夢殿おし開く            | 眞矢ひろみ  |
| 〇断面の小豆の穴も水羊羹      | 西田真己   | 「誉められて蹴るボール遠く飛ぶ          | 乃万美奈子 | 〇ほうたるのほろりとはがすあしのつめ       | 家藤正人   |
| 〇句に励み句に癒されて夏が来た   | 山崎タツ子  | 「サクマ式ドロップからから「火垂るの墓」     | 薦田典子  | 「聞こえない振りかも知れぬ羽抜鳥         | 金並れい子  |

○山笑う令和の笑い引き寄せる

山崎タツ子

一日記閉づ過去を思ふは未来にて

山崎 涼

○指先の力は強し若楓

三好靖子

○足垂れに蜂のゆれゆく金糸梅

田中泥炭

○不発弾のように母の目梅雨の星

安部拓朗

○人間も宇宙のかけら星祭

門屋和子

○雷がプリンを震え上がらせる

若狭昭宏

○ゆくりなき病む夫歩む半夏寒む

浜田京子

○百姓の昼寝の野稲育つ

福永立青

○父と同じ老斑かざし夏燕

松本勇二

☆高得点句 (・特選五点、並選一点)

・役員十六人による特選、入選の合計。

一位 二十一点

でこぼこの九十歳に青葉木菟

門屋和子

二位 十五点

村一つ消えて蛍の村となる

秋山豊美

三位 十四点

終りなき戦の国へ草矢射る

梅岡ちとせ

四位 八点

搾りたての牛乳のあを春深し

西田真己

四位 八点

踏み入りて青の淋しさ若芒

梅岡ちとせ

四位 八点

蒼天に背を向けて立つ飛込台

大西政司

四位 八点

人間も宇宙のかけら星祭

門屋和子

五位 七点

父の日や父しか知らぬ戦中記

稲井夏炉

五位 七点

潦蠅虎の謀

櫛部天思

五位 七点

最期まで厨妻なる茄子の花

本郷和子

令和六年度 愛媛県現代俳句協会賞

同新人賞の募集

◇協会賞 近詠 五〇句 (要タイトル)

新人賞 近詠 三〇句 (要タイトル)

◇応募資格 愛媛県現代俳句協会会員

◇締切り 令和七年二月二十日

◇投句料 無料

◇選考委員

協会賞 松本勇二 井上論天 白石司子

新人賞 松本勇二 本郷和子 山内崇弘

◇発表表彰 令和七年度総会にて

◇応募先 〒791-1106

松山市今在家一丁目六―三三 松本勇二宛

令和六年度 役員

・会長 松本勇二 (本部評議員)

・副会長 井上論天 白石司子

本郷和子 山内崇弘

・青年部長 家藤正人 (本部評議員)

・幹事 大野美代子 牛津せつ

大西政司 ※大西麻由子  
たかはししずみ 三好眞由美

・監事 武智かおる 金並れい子

・会計 窪田圭子

・事務局長 藤田敦子 (本部評議員)

・会員増強委員 (本部組織) 藤田敦子

※新任

## 【俳句対局 龍天王 決定戦】

### ・開催要項（案）

主催：愛媛県現代俳句協会

共催：有限会社マルコボ.コム（月刊『100 年俳句計画』）、北海道大学大学院情報科学研究  
院 調和系工学研究室（予定）、にぎたつ連歌会（予定）、まつやま俳句でまちづくりの会

後援：松山市（予定）、松山市文化協会（予定）

### 1. 目的

多くの俳句大会が、自作の俳句を投句しその評価を発表する催しであるが、観客が俳句を作らなくても、俳句という文芸に感動できるイベントができないか。そんな思いから、俳人たちが限られた時間でひたすら俳句を作り、その俳句の生まれる瞬間を共有することで、改めて俳句の面白みを味わえる催しとして俳句対局を企画しました。

またエキシビジョンマッチとして、北海道大学大学院調和系工学研究室が開発した俳句 AI と人類の対局も開催。

俳句の新しい楽しみ方の提案だけでなく、新たな俳人の活躍の場を提供することを目的として開催します。

2. 日時：2025 年 3 月 8 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分

3. 場所：愛媛県美術館 講堂（愛媛県松山市堀之内）

### 4. 内容：

囲碁や将棋の対局戦を模した、一対一の句合わせ対決を行う、松山発の新しい句会の形式です。対局者はそれぞれ、制限時間内に相手の俳句の一部を頂きながら、交互に俳句を作ってゆきます。全ての作句が終了したら、審査員による俳句の点数によって勝敗を決めます。（同点の場合は、残り時間を考慮の多いほうの勝利）

5. 出場者：未定(10 名程度募集)

### 6. 審査員

松本勇二（虎杖）、藤田敦子（虎杖）、西田真己（雫）、小西昭夫（子規新報）

### 7.参加・入場料 無料

#### 【問い合わせ先】

有限会社マルコボ.コム 『100 年俳句計画』

電話 089-906-0694

・参加申し込みQRコード



# 俳句対局 龍天王 決定戦

AIとの対決再び！

俳句対局とは、囲碁や将棋の対局戦を模した、一対一の句合わせ対決を行う、松山発の新しい句会の形式です。

対局者はそれぞれ、制限時間内に相手の俳句の一部を頂きながら、交互に俳句を作ってゆきます。全ての作句が終了したら、審査員による俳句の点数で勝敗を決めます。

当日は、エキシビジョンマッチとして、北海道大学大学院調和系工学研究室の開発した俳句AI（AI一茶くん）と人類（？）との俳句対局も行います。2023年12月に開催した際は、惜敗を期した人類。今回、そのリベンジができるかも見所です。

俳句が生まれる瞬間に立ち合う面白さを、存分にお楽しみください。



「AI一茶くん」は北海道大学大学院情報科学研究調和系工学研究室が開発した俳句を詠む人工知能です。

日時  
2025年

3月8日（土）

午後1時～

午後12時30分開場

場所

愛媛県美術館

講堂

審査員

愛媛県現代俳句協会会長

「虎杖」主宰

松本勇二

愛媛県現代俳句協会事務局長

「虎杖」

藤田敦子

「雫」主宰

「100年俳句計画」

西田真己

「子規新報」編集長

小西昭夫

ゲスト

北海道大学大学院

AI一茶くん

開発チーム

司会

平野和子

解説

「100年俳句計画」

川又 夕

出場者  
募集中

主催 愛媛県現代俳句協会

共催

有限会社マルコボ、コム「100年俳句計画」、北海道大学大学院情報科学研究調和系工学研究室（予定）、にぎたつ連歌会（予定）、まつやま俳句でまちづくりの会

後援

松山市（予定）、松山市文化協会（予定）

【申込・お問合せ先】有限会社マルコボ、コム Email: [info@marukobo.com](mailto:info@marukobo.com) Tel: 089-906-0694